

< 第 14 節終了時点順位表 >

	チーム名	勝	負	分	得	失	差	勝点
1	駒 澤 大 学	9	2	3	37	12	+25	30
2	法 政 大 学	7	2	5	25	15	+10	26
3	筑 波 大 学	7	3	4	32	16	+16	25
4	国 士 館 大 学	7	4	3	19	17	+2	24
5	流 通 経 済 大 学	5	5	4	14	21	-7	19
6	順 天 堂 大 学	5	6	3	23	22	+1	18
7	東 京 学 芸 大 学	5	7	2	17	19	-2	17
8	東 京 農 業 大 学	4	5	5	12	23	-11	17
9	中 央 大 学	4	6	4	22	24	-2	16
10	明 治 大 学	4	7	3	18	23	-5	15
11	亜 細 亜 大 学	4	7	3	13	22	-9	15
12	日 本 大 学	2	9	3	14	32	-18	9

国士館大学はリーグ戦後に勝ち点 - 7 とする

得点ランキング

- 10 ゴール 市川雅彦(法 大)
- 9 ゴール 平山相太(筑波大)
- 8 ゴール 赤嶺真吾(駒 大)
- 原 一樹(駒 大)
- 7 ゴール 宮崎大志郎(駒 大)
- 5 ゴール 田中雅也(法 大)
- 他 3 名

アシストランキング

- 11 アシスト 藤本淳吾(筑波大)
- 5 アシスト 島田祐輝(駒 大)
- 高野耕平(東学大)
- 石川高大(東農大)
- 4 アシスト 赤嶺真吾(駒 大)
- 巻 佑樹(駒 大)



昨年度のリーグ戦(前期)第5節以来のゴールを決めた東平



2アシストを記録した島田。キレのあるドリブル突破で観客を魅了。秋田監督も「スピードの緩急が使える」と期待を寄せている

ケガからの復帰後初のゴールを決めた鈴木亮。試合後「満足です」とこの日の勝利を喜んだ



ボールをキープする塚本。攻撃面でもロングフィードからチームにリズムを与えた

相手ボールをカットしようと粘りのディフェンスを見せる八角。「全体のバランスを意識した」と本人が言うように、ボランチとしての役目を果たした

9月10日 12:00 西が丘サッカー場	
駒大 5 (4 - 0) 2 明大	
(1位・30) (10位・15)	
得点者(アシスト)	
【駒】11分:鈴木亮平 4(島田祐輝 4)	
【駒】17分:原 一樹 7(赤嶺真吾 4)	
【駒】34分:原 一樹 8(島田祐輝 5)	
【駒】39分:赤嶺真吾 8(原 一樹 3)	
【明】82分:日高拓磨 1(橋本晃司)	
【駒】86分:東平大佑 1(巻 佑樹 4)	
【明】89分:吉田陽平 4(栗橋庸介)	
K O M A Z A W A	M E I J I
GK 21 牧野利昭(4)	GK 21 関憲太郎(2)
DF 塚本泰史(2)	DF 福田健介(3)
DF 桑原 靖(4)	DF 金 大慶(3)
DF 廣井友信(3)	DF 石井秀典(2)
DF 筑城和人(3)	DF 斉藤雅也(2)
MF 八角剛史(2)	(45分 上川雄三(2))
(88分 菊地光将(2))	MF 高杉亮太(4)
MF 28 笹岡新五(4)	(77分 橋本晃司(1))
MF 33 島田祐輝(4)	MF 伊藤敦嗣(4)
MF 鈴木亮平(4)	MF 栗橋庸介(4)
FW 赤嶺真吾(4)	MF 26 日高拓磨(4)
(68分 巻 佑樹(3))	FW 小川佳純(3)
FW 原 一樹(3)	FW 山本 剛(3)
(81分 30 東平大佑(2))	(45分 吉田陽平(4))
S U B	S U B
GK 21 三栗寛士(3)	GK 30 早川弘幸(2)
DF 阿部琢久哉(3)	DF 横山 智(2)
MF 宮崎大志郎(4)	MF 藤田優人(1)
MF 赤尾直和(4)	MF 増田洋平(1)
M A N A G E R	M A N A G E R
秋田浩一	坂下博之
警告(C) / 退場(S)	
【明】8分:高杉亮太(C)	
[シュート]16:8[GK]12:17[CK]3:10[PK]0:0[直接 FK]16:16[間接 FK]1:3[OS]1:2[主審]名取洋典[観衆]約 250人	
上記データは全て左側の数字が駒澤	



MAN OF THE MATCH

FW 原 一樹

2得点1アシストと大量得点の要となった原がこの試合のMOM。決めるところできっちり決めFWとしての役目を果たした。しかし、試合後には「試合に出る以外の選手でも勢いをつけている選手が居るので落とされないようにしっかり練習したい」と気持ちを引き締め直していた。

どうなる!? 優勝争い

後期初戦で日大に1 - 1と引き分け、出だしでつまづいた駒大であったが、上位に位置している筑波大、法大が両チームとも敗戦したためなんとか首位をキープ。第2、3節でも引き分けるなど宿敵の成績が振るわないため首位を守り続けている。この調子で勝ち点を重ねていきたい。しかし、2位との勝ち点差はわずか「4」。少しの油断も許されない。この先も熾烈な首位争いは続く。

そんな中第2、3節と大量得点で快勝した駒大であるが余計な失点が気になる。この試合では前半はほぼ完璧な試合をしていたが、終盤に2失点。それも2失点とも同じ形からの失点であった。「ディフェンス力をしっかりしていかないと長いリーグ戦は勝てない。試合は90分間トータルでみなければいけない。後半こういう風に戦うんだよと言っても余計なプレーをしてしまう。それではチャンピオンになることは出来ない」と秋田監督が語るようにこの先戦っていく上では、ディフェンス力が重要になってくるだろう。次節まで2週間期間が空く。清水エスパルスとの練習試合も組まれており、この期間でどれだけの修正を図れるか。この2週間がカギとなりそうだ。